

1. 職名・氏名 教授・有田広美

2. 学位 学位 博士、専門分野 看護学、授与機関 名古屋大学大学院、授与年月 2014.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人看護学概論（1単位 15時間 毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 成人期にある人々の特徴をライフサイクルの視点から捉え、成人期に特有な健康問題を環境や生活習慣など現代社会と照らし合わせて理解する。また、成人看護の対象となる人への支援に有用とされる概念や理論について学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 青年期の特徴は学生自身を振り返り、また壮年期は自分の親に聞き取りをするなどしてそれぞれの生活や健康について理解できるように進めている。受け身の授業にならないようにグループ毎にテーマを与え、成人看護に必要な理論についてグループで学習してプレゼンテーションを行う形式を取り入れている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 緩和ケア論（1単位 15時間 毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 緩和ケアの概念、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。さらに、残された時間が限られた人とその家族の心理、倫理的課題など事例を基にディスカッションやディベートを活用して患者および家族への看護を探究し、自らの死生観も養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 緩和ケアにおいては2年次開講であるため、まだ生や死を身近に感じる体験が少ない。そこで、実際のドキュメンタリーを視聴して、患者および家族の心理、ターミナルケアについてグループワークを通して考えさせている。また、受け身の授業にならないように、グループごとに課題を与え、グループで学習してプレゼンテーションを行う形式を取り入れている。緩和ケアの専門看護師の特別講義を開催している。 【ゲストスピーカー 1人】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学（2単位 30時間 毎年開講）2年次後期
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人々の健康の回復または健康障害を持つ人々がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 慢性疾患の病態、検査、看護の基礎知識の講義内容を、それぞれの専門領域を持つ教員、認定看護師、専門看護師による実践的な講義を受けることで知的関心を引き出すように努めている。 【ゲストスピーカー 1人】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学演習（1単位 30時間 毎年開講）3年次前期
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人および運動機能障害を持つ人がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。また、看護問題の解決に必要な思考プロセスを養う。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 後期の成人慢性看護学実習および療養生活マネジメント実習に向けて、セッション1～2に分け、セッション1ではがん化学療法を受ける患者の事例展開、セッション2では退院支援を必要とする患者の事例展開を行う。コロナによる遠隔授業のため看護技術演習は実施できなかったが、退院前カンファレンスのロールプレイを学生8人編成のグループで実施することができた。演習は、個人ワークとグループワークとし、教員3人で3グループずつ受け持ち、少人数指導による学生の個別性に合わせたきめ細かい教育を行っている。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学実習（2単位 毎年開講）3年後期</p>
<p>②内容・ねらい 慢性の病をもつ人、または健康を回復する途上にある人とその家族に対して看護が提供できる基礎能力を養う。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1週目の終わりにはプライマリーナースと学生とで看護計画についてのカンファレンスを開催し、実践者から直接指導を得る機会を作っている。カンファレンスでは、対象の全体像や看護上の問題、学生自身が困っていることなどの発表から、自己の課題と学生の学びが最終目標に向かうように指導している。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人看護発展セミナー（1単位 毎年開講）4年次前期</p>
<p>②内容・ねらい 既習の緩和ケア論で修得した知識および基礎看護学実習・専門領域看護学実習の体験を活かしながら、緩和・ターミナル期の病状経過に応じた患者・家族の援助を考える応用編である。緩和ケアに関して関心のあるトピックスを自ら調べ、そのテーマに関する文献抄読やディスカッションを行い、緩和ケア外来および緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、緩和ケア在宅医療を学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2022年度は不開講</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位 毎年開講）4年次通年</p>
<p>②内容・ねらい 看護実践を発展させるための看護研究のプロセスを理解し、研究態度を身につける。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本年度は、コロナ禍に入ってから初めて本学内の対象者に限るという制限はあったものの調査実施可能という本来の卒業研究に戻った。講義後に、研究テーマの決定、文献検討、研究計画書立案、質問紙調査票の作成、看護学科学生を対象に実施、分析・論文執筆を遠隔授業及び対面指導を行った。論文は優秀論文賞として推薦されることになった。</p>
<p>①当科目名（単位数）主たる配当年次等 看護マネジメント実習（2単位 毎年開講）4年次前期</p>
<p>②内容・ねらい 看護組織員の役割・機能、看護師への教育・キャリア支援の実際、組織における患者の安全管理システムの実際の見学を通して、また看護チームの一員としての実習することで看護サービスマネジメントの実際を学ぶ。この実習は、「看護の応用と発展」の科目として位置づけられ、すべての領域実習が終了している時期に行われる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度もコロナ感染拡大予防のために、病院実習日数を縮小したものの学内実習ではなく現場での対面実習を実施した。これまでどおり、看護部の役割、医療安全や感染予防委員会の役割などの臨床講義を実施し、病棟でどのように部門連携されているか、看護管理者およびリーダー看護師について管理者の役割を学び、さらにメンバーとして実際のケアに参加し、メンバーの役割を学び、組織の一員として看護を提供する事をマネジメントの視点で学んでいる。</p>

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等 看護倫理学（2単位 毎年開講） 大学院1年後期
②内容・ねらい 倫理的な意思決定を行うための基礎知識として医療・看護倫理の歴史的背景と倫理に関わる主要な概念について学習し、倫理調整を行うための方法論を修得する。さらに研究倫理についても学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2022年度は不開講。
①当科目名（単位数）主たる配当年次等 成人看護学特別研究（10単位） 大学院2年前後期
②内容・ねらい 特論、演習で学んだ知識を活用し、さらに主体的に研究の進め方について学習し、研究者としての基礎能力を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2022年度は院生なし。
(2)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)	【0本】
②学術論文(査読あり) (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日) ・A 県下介護老人保健施設の看取りケアにおける介護職との連携・協働のための看護職の実践と課題、共著(全般的な指導)、日本死の臨床研究会会誌、2022.02.28	【1本】
③その他論文(査読なし)	【0本】
③学会発表等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))	
1. 新卒訪問看護師が体験する困難と受けた教育支援による乗り越え方、日本看護研究学会中国・四国地方会 第35回学術集会(2022年3月)、共同報告あり(学部4年生との「FAA 学ぶなら福井! 応援事業」助成研究のため全般的な研究実施、研究指導・学会報告指導)	
2. 看護学生の新卒訪問看護師への就業に関する意識と関連要因、第38回福井県看護学会(2022年9月)、共同報告あり(学部4年生との「FAA 学ぶなら福井! 応援事業」助成研究のため全般的な研究実施、研究指導・学会報告指導)	
3. 急性増悪を経験した非がん性呼吸器疾患患者のアドバンス・ケア・プランニングに関わる病棟看護師が抱える困難、第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(2022	

<p>年 11 月)、共同報告あり (主に研究指導)</p> <p>* 4. 腰椎および下肢の手術を受けた高齢患者の術後一週間の睡眠の実態、第 42 回日本看護科学学会学術集会 (2022.12 月)、共同報告あり (主に研究全般の実施・分析・学会準備)</p> <p style="text-align: right;">【 4 件】</p>
<p>④その他の公表実績</p> <p>保健・医療・介護の現場における睡眠ケア第 5 回 周術期にある患者への睡眠ケア、睡眠医療 p337-341、Vol 16 No3 、ライフサイエンス社、2022.</p> <p style="text-align: right;">【 1 本】</p>
<p>(2)科研費等の競争的資金獲得実績</p> <p>【学外】</p> <p>①科学研究費助成基金基盤研究 (C) 継続 腰椎および下肢の手術を受けた高齢患者の術後睡眠、研究代表者</p> <p>【学内】</p> <p>戦略的課題研究推進支援 新規 看護学生の安全マネジメント力の概念整理と測定方法の開発、研究分担者</p>
<p>(3)特許等取得</p>
<p>(4)学会会活動等</p> <p>看護ケアサイエンス学会 評議員 2020.12～現在に至る 石川看護実践学会誌 査読委員</p>

5. 地域社会貢献活動

<p>①国・地方公共団体等の委員会・審議会 (それぞれの名称、業務内容、担当期間)</p>
<p>②国・地方公共団体等の調査受託等 (それぞれの名称、業務内容、活動期間)</p>
<p>③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加 (それぞれの名称と活動内容、活動期間)</p>
<p>④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 (企業名、活動内容、活動期間)</p>
<p>⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間)</p>
<p>⑥公開講座・オープンカレッジの開講、社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時)</p> <p>・看護師リカレント教育講座 4 回シリーズ企画者、「臨床に活かす看護研究～県大の看護教員はどんな研究をしているの?～」、永平寺キャンパス Zoom、2022.6-7 月 「看護研究のための文献の探し方・文献の読み方」</p> <p>看護師リカレント教育講座 3 回シリーズ企画者、「臨床に活かす看護研究～県大の看護教員はどんな研究をしているの?～」、永平寺キャンパス Zoom、2022.10-11 月</p>
<p>⑦その他 (名称、活動場所、活動期間)</p> <p>福井循環器病院地域医療推進委員 2014 年～現在に至る</p>

6. 大学運営への参画

(1)補職
(職名、期間)
(2)委員会・チーム活動
(名称、期間) 教育研究委員 2021年～現在に至る 国際交流吉林大学 2018年～現在に至る 研究科倫理小委員会(委員長) 2020年～現在に至る 大学院教務係 2021年～現在に至る
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時)
(4)その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)